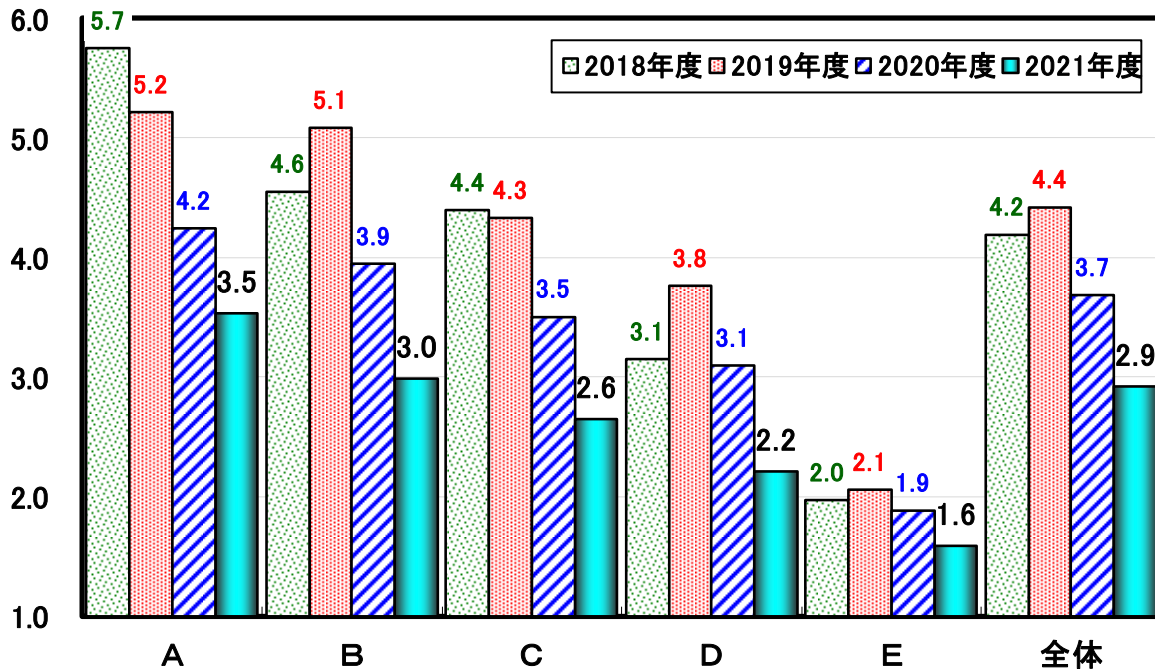


2021年度入試状況分析【私立大】

本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

模試合格判定ライングループ別実質倍率

文系は全グループでダウン、競争緩和



※2021年度基準で2021年度・2020年度を分類
2019年度は2020年度基準、2018年度は2019年度基準

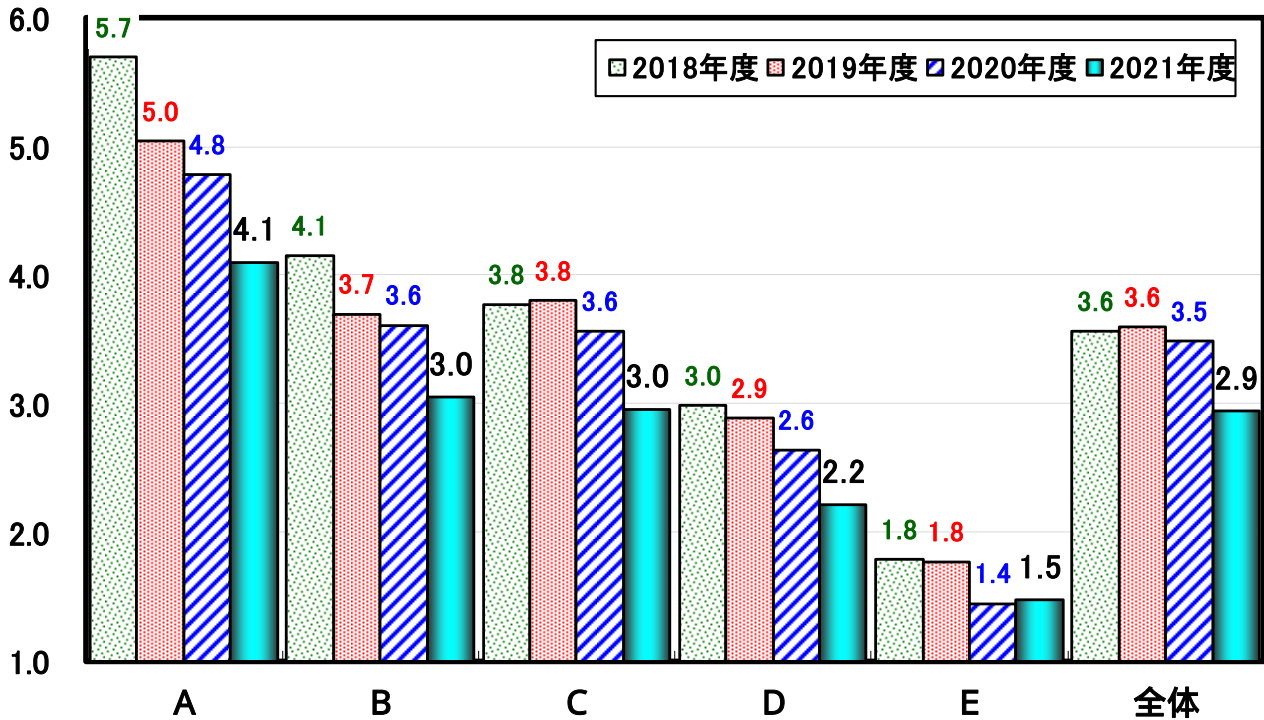
Aグループ＝③SBマーク判定Bライン65以上
Bグループ＝③SBマーク判定Bライン60以上65未満
Cグループ＝③SBマーク判定Bライン55以上60未満
Dグループ＝②SBマーク判定Bライン50以上55未満
Eグループ＝②SBマーク判定Bライン50未満

受験者数、合格者数のいずれも判明している募集区分について、学部単位(一般方式と共通テスト利用方式は分ける)で算出した実質倍率を、第3回駿台・ベネッセマーク模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位で5つのグループ(上位Aグループ～下位Eグループ)に分類して3か年分を示したのが上のグラフです。

文系は、全体では3.7倍から2.9倍と0.8ポイントダウンしており、競争ははっきりと緩和しました。グループ別では、A～Eグループ全てではっきりとしたダウンで競争が緩和しました。特に難関レベルのBグループは、2年間で5.1倍から3.0倍と2.1ポイントダウンしており、文系で最も競争が緩和したのがわかります。一方で、Eグループは0.3ポイントダウンに留まりましたが、前年度に引続き2.0倍を下回りました。

2021年度入試状況分析【私立大】

理系はA～Dグループで競争緩和、Eグループは実質的には「全入」状態



※2021年度基準で2021年度・2020年度を分類
2019年度は2020年度基準、2018年度は2019年度基準

- Aグループ＝③SBマーク判定Bライン65以上
- Bグループ＝③SBマーク判定Bライン60以上65未満
- Cグループ＝③SBマーク判定Bライン55以上60未満
- Dグループ＝②SBマーク判定Bライン50以上55未満
- Eグループ＝②SBマーク判定Bライン50未満

理系は、全体では3.5倍から2.9倍と0.6ポイントダウンと、文系よりややダウン幅は小さいものの、競争は緩和しました。

グループ別では、A～Dグループがダウンしていて、文系同様に受験生が自分の実力に合った学校を絞り込んで受験する傾向がみられました。一方で、Eグループのみ前年度並ですが、1.5倍前後という低倍率が前年度から継続しており、実質的には競争がほぼ無い「全入状態」だったことがわかります。